



緑化のポイントは森です。
市民自らの植栽による「市民の森」をつくりまします。

星子敏雄熊本市長

八月十七日、朝さわやかな熊本城二の丸公園の木陰で、細川県知事と星子熊本市長が対談され、そのなかでお二人の緑化問題に対する基本的な考えが話し合われました。(司会は熊本日日新聞社監査役、南良平さんです。)

南 知事さんは「緑の十か年計画」を言われていますが。

知事 議会で、緑が多いか少ないかは文明の一つの指標みたいなものであるという話をしたことがあるんです。外国を歩いていて特に思うことは、緑を大切にしているということですね。たとえばシンガポールに行くとき、緑が豊かですね。財政面などあらゆる面から緑を大事にすることに取り組んでいるんです。首相以下閣僚も総出で、一か月間小さな苗木をもって国内を回るそうです。

そこで熊本でも緑を積極的にふやしていきたいと考えて、計画を打ち出したわけです。その具体的な計画をたてる対策室(環境文化企画室)を九月一日から企画開発部の中に設置する予定です。

南 こうした計画では都市緑化のポイントになると思いますが。

市長 昭和三十九年にある旅行者が「熊本市はうす汚いですよ。」と言ったという話を聞いて、「街をきれいにする運動」を始めたんです。当時は市民の共感を得るには至らなかったんですが、その落とし子として、公園愛護会や坪井川の清掃団体などが作られたんです。そしてそれらの運動の一つとしてできたのが緑化対策で、昭和四十七年「森の都宣言」を行い、「緑化大作戦」が始まりました。立田山の生活環境保全林整備事業が始まったのもこの頃から



積極的に「緑」をふやすため
「緑の十か年計画」を実行します。